

## 岡山県支部 1月例会(技術発表会)報告

岡山支部：阿部典子

2026年1月17日（土曜日）、岡山県立図書館において、日本技術士会中国本部岡山県支部による技術発表会が開催された。本発表会では、4名の技術士より日頃の研究成果や実務に基づく取組について発表が行われた。以下にその概要を報告する。

1. 日 時：2026年1月17日（土）13:30～17:00
2. 会 場：岡山県立図書館 2階 デジタル情報シアター（岡山市北区丸の内2-6-30）

### 3. 次 第

#### （1）開会挨拶（13:30～13:40）

川井支部長より以下の挨拶があった。

昨年10月に開催された「日本海・瀬戸内海・太平洋横断技術士会岡山大会」が盛況のうちに終了したことに触れ、技術士相互の知見向上およびコミュニケーション力向上が図られたことが述べられた。また、本例会が今年度最後の

例会であること、4名の技術士による講演が予定されていることが紹介された。

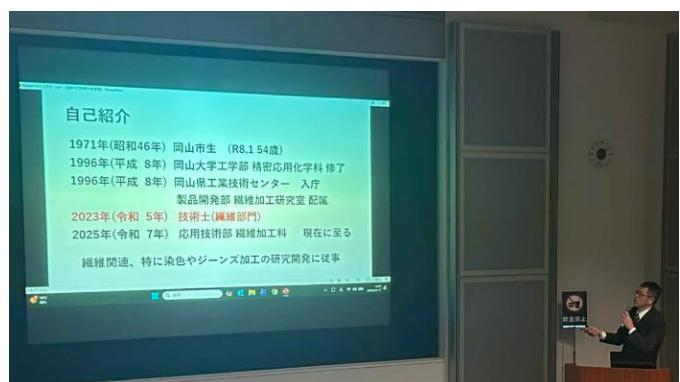


#### （2）技術発表会（13:40～16:50）

##### ○演題「岡山県のデニム産業を技術で支援する」

講師：國籐 勝士（岡山県工業技術センター 科長 繊維部門）

國籐氏からは自己紹介の後、岡山デニムのプロモーションビデオ（約8分、岡山県産業労働部製作）が紹介された。400年の歴史の中で独自の進化を遂げてきた岡山デニムと、その加工技術が岡山で発展してきた背景、世界的にも注目を集めている現状について、分かりやすく説明された。



続いて、岡山県の繊維産業の現状がデータをもとに示され、その中で岡山県工業技術センターが果たしている役割について説明があった。公設試（地方自治体が設立した公設研究機関）として、中小企業のものづくりを支援してきた事例として、「ストレッチジーンズの劣化を抑えた洗い加工技術」など4件の研究・支援事例が紹介された。

### ○演題「池、堀そして児島湖の浄化」

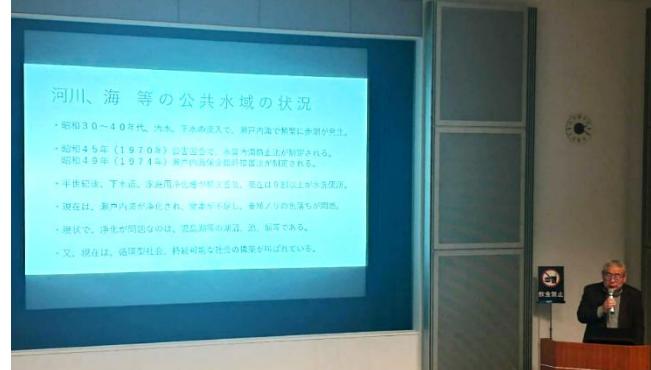
講師：楠 敏明

（アクアテクノス 代表

衛生工学・上下水道部門）

楠氏からは、河川や池、堀など公共水域の現状と浄化の取組について紹介があった。用途ごとに求められる条件が異なる中で、物理的・化学的・生物学的浄化法の3手法を比較し、汚泥が溜まりにくい、費用が比較的安価である（カキ殻利用の場合）、循環型社会に寄与する等の理由から、生物学的浄化法を追求してきた経緯が説明された。

「児島湖水での実験」「ゴルフ場の池での実験」「倉敷アイビースクエアでの実験」「撫川城址の堀での浄化実験」など、豊富な実験事例が紹介され、経験に基づいた専門的な観点から、生物学的浄化法の可能性が示された。

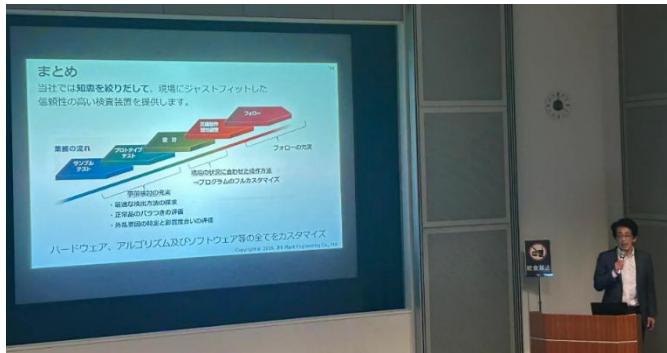


### ○演題「製紙業界向け品質検査装置の開発」

講師：池田 孝之（JFE プラントエンジニアリング 機械・総合技術監理部門）

池田氏は、コピー用紙検査装置のメーカーとしてエンジニアリングおよびメンテナンス業務を行っており、品質検査装置の開発を通じて製品のブランド価値を守る取組について発表された。

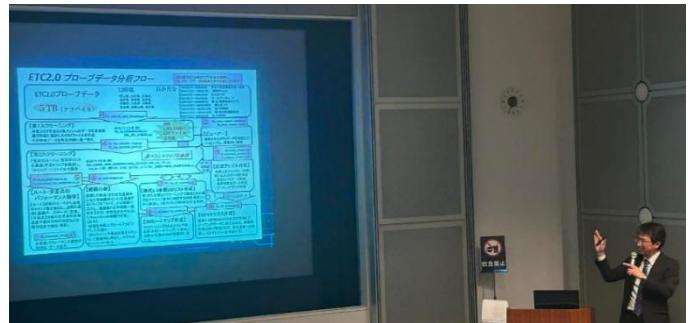
製造工程における外観検査、包装状態確認、寸法確認などの課題に対し、検査装置の開発と改善を繰り返してきた事例が紹介された。レーザーカメラ配置の工夫、赤外線画像を用いた包装紙折目検査、新たなパターンマッチングのためのアルゴリズムの開発、静電気を用いた寸法測定誤差対策など、現場に即した多様な工夫が示された。現場に「ジャストフィット」する信頼性の高い検査装置の開発・提供を行っている点が印象的であった。



○演題「AI 活用によるデータドリブン型の道路計画に向けた取組について」

講師：真木 久幸（津山市役所 上下水道・建設部門）

真木氏からは、津山市内の道路ネットワークを「サービスレベル」という切り口から検証するため、従来手法にとらわれず、AI 技術を含む様々なツールを活用し、道路ユーザ一目線での現場感覚を定量的なデータとして評価する取組について紹介があった。



自己紹介を交えながら、AI 技術の急速な発展と各種ツールの概要が示され、どのような経緯で AI 活用に取り組むに至ったのかについても、分かりやすく説明された。AI を活用することで、道路利用者目線や住民の声、実際の渋滞状況などから課題を抽出し、時間帯・方向・車種別の要因分析や対策案の仮説立案、指標算出、評価、再検討といった PDCA プロセスを高速に回すことが可能になるとの考え方のもと、データ解析・検証技術を構築してきたことが紹介された。

具体的な事例として、AI 交通量解析や ETC2.0 プローブデータを用いた定量的指標の算出、交通シミュレーター (SUMO) の活用について説明があった。現場で培われた直感を効率的に客観的な数値へと変換し、議論や合意形成を健全に進めるために、AI 技術を有効に活用しながら試行錯誤を重ねてきた過程が、大変興味深い内容であった。

（3）閉会挨拶（16：50～17：00）

分部 副支部長より、閉会の挨拶があった。